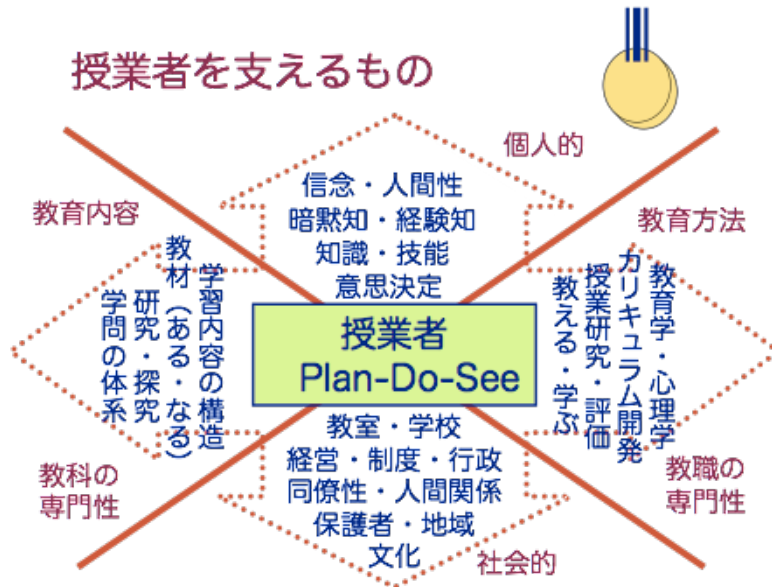


授業研究と教師の成長 -専門職としての教師-

1 教えることを学ぶ教師

- 授業者を支えるもの
 - ・ 授業者の日常：Plan-Do-See



- 教授スキルのトレーニングの可能性

教授行動を分析して、発問、板書、指示、説明、情報提示などに分類し、それぞれの典型をトレーニングすることによって、教授スキルを身につけることができる。

→ 教員養成、初任者教育にとっては、一定程度、有効性はみとめられるといえる。

しかし、

複雑な要因が絡み合う現実の場面では、これらは素朴すぎる。

意思決定、マネジメント能力が必要。

経験知も重要。ただし、単なる、カン、コツに頼るのは、頼りない。

自分自身の拠り所となる理論を不断に更新していくことが重要。

2 授業研究と教師の成長

- 理論的裏付けをとまって実践を改善していく力

研究者としての教師

反省的实践家

アクションリサーチ

- 授業研究と教師の日常

たしかに、研究授業は、非日常。

その時のために、用意された時間、人。

指導案の検討をかさねる。

しかし、本来的に、

教育実践の設計・実施・評価のプロセスには、研究的な契機が含まれている。

「日常的教育実践＝教育実践研究」

ととらえると、実践と研究の区別を曖昧にしまい、これによる弊害もあるが、理念上は、この図式は成り立つ。

弊害の例： 実践の手だてと、研究の手だてが混同されがち

日常的教育実践においても、研究的態度で授業改善に臨むとともに、非日常の研究授業においても、日常とかけ離れない問題を設定する。